

## 〈全校研究主題〉

# 生き生きと学び続ける生徒の育成

～主体的・対話的に学びながら、一人一人が課題解決できる授業づくりを通して～

### 〈英語科の生徒の実態〉

- ルールに従って、意欲的に活動に取り組むことができる。
- 仲間とコミュニケーションを図ることを楽しめる生徒が多い。
- 仲間の良さを認め、自分に取り入れていこうとする生徒がいる。
- 聞き手が理解しているかを確かめながら、対話を楽しめる生徒がいる。
- 自分の伝えたいことを、相手の理解に応じて、表現方法を工夫できる生徒が少ない。
- 自分が伝えたいことの表現方法がわからずあきらめてしまう生徒がいる。

### 〈授業で生み出したい姿〉

#### 〈主体的・対話的な姿〉

- \*間違いを恐れず、既習の表現を使って、積極的に自分の考えや思いを伝える姿。
- \*コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて他者を尊重しながら対話活動をする姿。
- \*課題解決をするための方向性を考え、見通しをもつ姿。

#### 〈課題解決できる姿（深い学び）〉

- \*交流後、得た情報を整理し、表現や内容を高めようと取り組む姿。
- \*評価することによって自己を振り返り、自分の表現や内容を再構築し高めようと取り組む姿。
- \*仲間の良さを認め合い、それを伝え、互いの学びを深め合う姿。

## 〈英語科研究主題〉

# 正しい英語を駆使し、即興的に自分の考えを伝え合うことのできる生徒の育成

### 〈研究主題設定の理由〉

英語科の「生み出したい生徒の姿」とは、「課題を達成するために、間違いを恐れずに既習の表現を使って、積極的に自分の考えや思いを伝える姿」、「他者の立場や思いを主体的にとらえ伝えようとする姿」である。そのような生徒の姿を具現するために、身に付けさせたい表現を、即興的に活動の形態をかえて、自分の考えを伝え合う活動を何度も繰り返し行うことで定着を図りたい。また活動の中で、間違いが多い英語の特徴やきまりを活動の途中で学び合い、正すことで適切な表現を使えるようになるなど、正確な英語で表現するための指導方法の工夫をしたい。

また、自分の思いを一方向的に伝えるのではなく、他者の立場や状況を理解し、工夫して伝える思いやりの心を育成したい。基本文や、新しい表現の習得においては、何度も様々な形で活動を仕組むことで、汎用的な表現やスキルを身に付けさせたいと考え、主題を設定した。

### 〈研究内容1〉

#### 「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫

- ・生徒が意欲的に取り組むことができ、課題を解決することで、ねらいとする表現を身に付けることができる、必然性のある Task を設定する。
- ・活動の内容を変えて、何度も繰り返し活動をすることによって、即興的に自分の考えを伝えることができるようにする。
- ・授業のはじめに、small talk を位置づけ、コミュニケーションのスキル、新しい文法・表現を身に付ける。

### 〈研究内容2〉

#### 一人一人が課題解決できる手立ての工夫

#### ①一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫

- ・単位時間に生徒が目的意識をもって活動に取り組むために、本時間を習得すればよいのかを、モデルを示すなどし、生徒が目標を理解し取り組めるようにする。
- ・生徒が使うとよい表現や、理解の手助けとなるように、ペープサートや絵を用いて視覚化を図る。

#### ②学びの状況を実感できる授業終末の工夫

- ・授業の終末に、生徒が自分が発話した英文を書き、ペアでエラーコレクションを行うことで、英語の正確性を高め、生徒が学びの状況を実感できるようにする。

## 研究の基盤（確かな学級経営と教科横断の共通指導、PDCA サイクルを意図した指導）

- ①互いに認め、高め合える学級集団の育成 ②生徒の自主的な活動の推進 ③基礎・基本の定着